

1 学校教育目標

考える子（知） 心豊かな子（徳） たくましい子（体）

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・学力の向上に取り組む学校	・居心地のよい学校づくりに取り組む学校	・体力向上に取り組む学校
○児童・生徒像	・考える子	・心豊かな子	・たくましい子
○教師像	・授業改善を推進する教師	・児童の可能性を引き出す教師	・子供と共に汗を流す教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]
 ○児童について ほとんどの児童に基本的な生活習慣が身についている。一方、放課後における金銭トラブル等生活指導上の課題が見られる児童がいる。
 ○教師について 若い教員や経験年数の浅い教員が多いが、学ぼうとする意識は高い。どの学級も比較的落ち着いた学級経営ができています。
 ○保護者・地域について 家庭や地域は学校に対し概ね協力的である。行事の際もボランティアで協力する保護者が増えてきた。

[前年度の成果と課題]
重点的な取組事項－1
 ・4月の区学力調査において達成率は国語、算数ともに 83.9%と前年の数値を上回ったが、学校目標値の 85%以上を達成することができなかった。
 ・定着度テストにおいて全学級正答率 80%以上は達成できなかった。AIドリルを活用した繰り返し学習などを効果的に取り入れていく。

重点的な取組事項－2
 ・意識調査の結果では「自己肯定感」の低い児童が多い。道徳の授業を中心とした道徳教育を充実させ、一人一人の良さを認め伸ばす指導を実践していく。
 ・「不登校」「いじめ」などの発生件数を0にすることができなかった。組織的に対応し、家庭や関係機関との連携を密にしながら未然防止と解消に努める。

重点的な取組事項－3
 ・都の体力調査の結果では平均値を上回る項目が増えてきたが、「投力」「走力」がまだ低い。年間を通じた体力向上の取組を実践していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健やかな体の育成	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着率向上と授業の質の向上を図る。		4月目標 両教科 85%以上 年度末目標 両教科 80%以上		4月:国語 86.9% 算数 84.2% 2月:国語 78.0% 算数 80.0%		4月の段階で目標はほぼ達成できた。なお、 <u>学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照</u>		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習	全児童 国・算	毎週 火～金 曜実施 始業前 15分	【指導者体制】 担任 【取組のねらい・目的】 学習内容の復習・確認 【使用教材】 AIドリル(Qubena)・自作教材 等	日々の授業 単元テスト等 到達度確認テ スト	年間を通じ、全 学年の漢字テス ト・計算テスト等 の正答率平均8 0%以上。	言語・漢字項目の平均 正当率が80%を超えて いた学級 8学級(18学級中) 計算の平均正当率が8 0%を超えていた学級 17学級(18学級中)	算数は全学年でほぼ目 標を達成したが、国語 は3年生以上で目標を 下回っている。 特に4年生が低く、より 丁寧に繰り返し指導し ていく必要がある。	○
2 継続	放課後 補習	全学年 国・算 補習を必 要とする 児童	通年 放課後	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的な内容の定 着、現学習単元の補充 【使用教材】 既習内容のプリント・AIドリル (Qubena)等	日々の授業 単元テスト等 到達度確認テ スト	2月の確認テス トで国語・算数 共に正答率を1 0%以上アップさ せる。	「国語(通過率)」 1年 67.1% 2年 81.3% 3年 73.8% 4年 86.4% 5年 79.5% 6年 79.2% 「算数(通過率)」 1年 81.0% 2年 89.5% 3年 74.4% 4年 77.5% 5年 81.9% 6年 77.1%	1年国語の落ち込み が目立つ。試験のスタ イルに慣れていないと いう点を差し引いて も、しっかり結果の分 析をし、手立てを講じ る必要がある。	●
3 継続	AIドリル (Qubena)・I CT機器の 活用 [授業改善]	全学年 全教員	通年 授業の 中で計 画的に 活用	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 ICT機器を活用し、わかる授 業・児童が主体的に学ぶ授 業を行う。 【使用教材】 ICT機器・AI ドリル(Qubena) 等	週案等で活用 状況を確認	1日1回以上 AI ドリル・ICT 機器 を活用した授業 を行う。	AIドリル活用状況調査 では、ほとんどの学級 (18学級中の17学級) で区の目標値を上回っ た。 ICT 機器はすべての学 級でほぼ毎日活用して いる。	AI ドリルの活用は十分 にできている。 AI ドリルの活用が学力 の向上にどのように係 わっているのかを、丁 寧に検証していく必要 がある。	◎

4 継続	授業力 向上	全教員 全教科	通年	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 主体的・対話的で深い学び の実現に向け、指導方法に ついて研究する。 経験年数5年未満の教員 は、教科指導専門員の指導 を受け、指導力の向上を図 る。	児童意識調査 単元テスト等	区調査の「学校 での授業がわか る」「学校の授業 は楽しい」「自分 の考えや意見を わかりやすく伝 えることができる」の項目に肯 定的に回答した 児童80%以 上。 年間を通じ、全 学年の漢字テス ト・計算テスト等 の正答率平均8 0%以上。	「学校での授業がわかる」 2年 90.5% 3年 93.8% 4年 42.7% 5年 53.0% 6年 47.8% (4年以上は「よくわかる」のみの数値)	単元テストの正答率は 目標に達しなかった学 級はあるものの極端に 劣る学級はなかった。 一定の成果はあったと 考える。 意識調査では「学校の 授業が楽しい」と感じて いる児童の割合がすべ ての学年で高く、国や 区の平均を上回ってい る。 「授業がわかる」の項目 においても、区の平均 を下回っている学年も 見られるが、それほど悪 い数値ではない。今後 も「わかった」という実感 を伴う授業展開をして いく。	◎	
5 継続	小中連携	全教員 全教科	通年	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 研究授業を行うことで指導力 の向上を図る。 分科会ごとに研究授業を行 う。			「学校の授業は楽しい」 2年 90.5% 3年 91.3% 4年 93.8% 5年 95.2% 6年 88.0%		「意見や考えを伝える」 2年 78.4% 3年 75.1% 4年 78.4% 5年 72.3% 6年 68.5%	◎
6 新規	校内研究 算数科 [授業改善]	全学年 全教員	通年	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 主体的・対話的で深い学び の実現に向け、算数科の授 業から指導方法について研 究する。 【使用教材】ICT機器 等			※下線は国・区の平均 値を下回っている項目 国語の平均正当率が8 0%を超えていた学級 8学級(18学級中) 算数の平均正当率が8 0%を超えていた学級 17学級(18学級中)		◎	

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	児童の豊かな人間性を育成する。	目標実現に向けた取組の実施結果が 4項目とも「おおむね達成」以上	全ての項目で基準を達成することが できた。	次年度も継続して取り 組んでいく。	◎
B	目標実現に向けた取組み				
	項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題

道徳教育・特別活動の充実	・意識調査の「自己肯定感」の項目で80%以上の児童が肯定的回答	・道徳の授業を中心とした全教育活動における質の高い道徳教育の実践。 ・年間35時間以上、道徳の授業の確実な実践。 ・行事への児童の主体的な関わりと、事前事後指導の実践。	全学年・学級で道徳の授業年間35時間以上の実施。 「自分にはよいところがある」に関する項目(肯定群回答割合) 2年 90.7% 3年 81.7% 4年 72.7% 5年 79.5% 6年 64.1% ※下線は国・区の平均値を下回っている項目	昨年度平均を下回っていた学年が、そのまま今年度も下回っている。 実態を分析し道徳教育や特別活動等のより一層の質の向上を図っていく必要がある。	○
いじめ防止 不登校への早期対応	・年度末でのいじめ解消率100%。 ・不登校0、少なくとも前年度より減 ・「学校は楽しい」の調査項目で80%以上の児童が肯定的回答	・人権教育プログラムを用いた人権に関する研修の実施。 ・毎週金曜に生活指導夕会を実施し情報を共有。 ・全教員での生活指導全体会を実施し情報を共有。 ・関係機関との連携。	「学校に行くのが楽しい」に関する項目(肯定群回答割合) 2年 94.7% 3年 93.8% 4年 96.6% 5年 91.6% 6年 88.0% 不登校児童(登校渋り含)10名	全ての学年で国・区の平均を上回っている。 不登校傾向にある児童は毎年顔ぶれが変わらない。継続して働きかけていく。	◎
「みそあじ」の徹底	・意識調査の「基本的生活習慣」の項目で90%以上の児童が肯定的回答	・「身だしなみ、掃除、挨拶、時間を守る」の項目について、全校統一して指導をする。	「学校のきまりを守る」に関する項目(肯定群回答割合) 2年 85.3% 3年 96.2% 4年 93.2% 5年 96.3% 6年 92.4%	ほぼ平均を上回っている。より意識の向上を高めていく。	○
読書活動の充実	・年間読書冊数、全校で4万冊以上 ・図書貸出冊数、全校で2万冊以上	・図書館支援員、副校長補佐、SSSによる、休み時間等の図書貸出の充実。	年間読書冊数 34,306冊※2月末 図書貸出冊数 26,722冊 (2月末時点)	昨年度よりも読書数・貸出し数を向上させ、読書活動を充実することができた。	◎

重点的な取組事項－3		健やかな体の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
自らの健康と体力の向上を目指す児童を育成する。	目標実現に向けた取組の実施結果が、3項目とも「おおむね達成」以上	運動能力向上の項目で目標を達成することができなかった。	次年度も継続して取り組んでいく。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

体力や運動能力の向上	・都の体力調査で「投力」「50m走」の項目で都の平均値以上	・持久走旬間、短縄・長縄旬間等の体育的行事の年間を通じた取組。 ・体力を高めるための環境作り。 ・休み時間の外遊びの励行。	平均値以上の学年(各学年男女別) 「投力」(5/12)※数字は学年 1男女・5女・6男女 「50m走」(6/12) 1女・2女・3男女・4男・5男・6男	「投力」「走力」以上に数値の低いのが「反復横跳び」の項目である。次年度はこの項目を取り組み課題とする。	△
体育の授業の質の向上	・意識調査の「体育が好き」の項目で90%以上の児童が肯定的回答 ・都の体力調査の数値向上(前年比)	・研修等を通じた体育科授業における指導方法の改善と、運動に親しめる環境や用具の工夫。	「体育がとても好き・好き」(肯定群回答割合) ※4年以上 4年 98.9% 5年 90.4% 6年 91.3% 「一番好きな教科」 全学年で体育が1位である。	昨年度よりも数値が向上している。 研修等を通して「楽しい」体育の授業作りを推進していく。	◎
保健指導・食育指導の充実	・意識調査の「食事」や「睡眠」等に関する項目で90%以上の児童が肯定的回答	・保健指導や食育指導の充実。 ・養護教諭や栄養士と連携した授業の実施。 ・保護者会や各種便りを活用した保護者への啓発。	「朝食の摂取」に関する項目(肯定群回答割合) 2年 95.9% 3年 97.4% 4年 94.4% 5年 92.8% 6年 92.4% 「自ら起床」に関する項目(肯定群回答割合) 2年 62.7% 3年 71.3% 4年 71.6% 5年 73.5% 6年 75.0%	「朝食」に関しては目標を達成したもの、本来であれば100%を目指したいところである。 家庭の努力と協力が不可欠な項目でもあるので、連携を図りながら健全育成を進めていく。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア学力向上アクションプランについて<重点的な取組事項-1>

【成果と課題】

・区の調査結果では昨年度より達成率を向上させたが、算数は学校の目標値には届かなかった。国語、算数共に区の平均値と比べればどの学年も上回っているが、学校の目標値で考えると5年の国語、5年、6年の算数が達成できていない。特に6年の算数の達成率は73.9%と他学年に比べて極端に低い数値である。傾向を分析すると「立体図形」「分数の計算」「小数の計算」といった問題の正答率が低い。

【対策】

・A I ドリル等を活用し、繰り返し問題に取り組みさせることで理解の定着を図るのはもちろんであるが、次年度は「G I G Aスクール推進研究校（ICTモデル校）」にも選ばれたので、ICT機器を活用した児童の力を伸ばす授業改善にも取り組んでいく。
・朝学習では、短時間でできるように学習内容を児童の実態を基にピンポイントで絞り、基礎的な力を育成する。
・放課後補習では、個々の児童に応じた個別の課題に繰り返し取り組みさせることで、弱点の克服を図る。

イ豊かな心の育成について<重点的な取組事項-2>

【成果と課題】

・意識調査の結果を見ると、自己肯定感の低い児童がまだまだ多いが、他の項目では意識の向上が見られる。いじめ件数も昨年度に比べ減少傾向にある。不登校対応は一進一退の状況が続いている。継続して取り組む必要がある。

【対策】

- ・不登校問題の解消には家庭や関係機関との連携が不可欠である。今後も組織的な対応と、児童の状況把握に努めていく。
- ウ 健やかな体の育成について<重点的な取組事項-3>

【成果と課題】

- ・各種体育的行事や教員対象の体育研修等を行ってきたが、複数の項目で数値が上がらない状況である。
- ・意識調査の結果から、昨年度に比べ体育が好きな児童が増えてきており、研修の成果が出ていると言える。
- ・基本的な生活習慣に対する児童の意識も昨年度より高まってきている。今後も各家庭に協力を呼びかける。

【対策】

- ・取り組ませ方や場の設定方法を研究し、いかに児童の体力を向上させるかを真剣に考えなくてはならない。そのための研修を充実させていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者や地域の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をしていただき感謝しております。次年度は『GIGAスクール推進研究校』『学校図書館利活用推進校』を学校経営上の2本柱として教育活動を推進していきます。今後も保護者や地域の皆様と連携しながら、児童のより一層の健全育成に努めていきたいと思っております。

(3) その他（学校教育活動全般について）

本校は長年、学力向上が課題となっていたが、ここ数年の取組で着実に力を着けてきている。しかし、例年のことではあるが、2月の調査ではほとんどの学年・学級で達成率が下がってしまっている。算数は一定の成果を見せているが、国語が十分定着していない。分析と対策をしっかりと行っていく。